

山形大学

蔵王協議会だより

第15号

関連病院会の声

横山病院長  
吉岡病院長  
若宮病院長

横山 幸生  
吉岡 信弥  
長谷川朝穂

山形大学高度医療人研修センターのご案内

高度医療人研修センター長 佐藤 慎哉

医学科学学生の声

山回 茜・樺澤 崇允

- ▶資料1 平成22年度研修病院のマッチング状況
- ▶資料2 平成22年度研修医マッチングの結果
- ▶資料3 平成23年度卒後臨床研修プログラム・2年次
- ▶資料4 後期研修医の動向



## 医師たるものには 使命に立ち向かうための何らかの才能が 必ずや備えられている

### 蔵王協議会関連病院

医療法人横山厚生会 横山病院 院長 横山 幸生

当院は、初代院長が昭和初期に産婦人科病院と産婆学校を開設して以来、数十年に渡り産婆育成と産婦人医として地域医療に尽力して参り、昭和27年に看護師の教育と育成を始め、昭和32年に横山病院並びに山形厚生看護学校からなる医療法人横山厚生会と名称を変え、病院を法人化してから、今年の3月で創立54年を迎える産科婦人科の単科の病院であります。

後期研修医動向等に関しましては無関係でございますけれども、週2回山形大学病院から産科の先生2名に来ていただいて、最新の医療の動向についてご指導を頂いております。又、厚生看護学校におきましては、大学の先生方より講義をしていただいております、山形大学病院にて実習させて頂いております。当看護学校の卒業生も山形大学病院へ多数就職いたしております。

当病院の去年の分娩数は584件であり、上記の先生方のご指導により大過無く過ごしております。尚、お陰さまで当病院長は、今年1月28日厚生労働大臣賞産科医療功労賞を受賞致しました。今後ともご協力の程宜しく御願致します。



## もう一度原点に返り 地域と共存できる病院であることを 肝に命じて

### 地域に根っこをはった特殊性のある病院に.....

医療法人社団丹心会 理事長 吉岡病院 院長 吉岡 信 弥

蔵王協議会の皆様にはいつもお世話になっております。

天童の舞鶴山の上り口、湯の香漂う温泉街のネオンの瞬きの中にあります、吉岡病院です。この地におきましてすでに40年、私の代になりまして15年の小さな病院です。

整形外科、リハビリテーションを中心に142床をフル稼働させております。5人の整形外科医、麻酔科医1人の常勤医に加え、山形大学の一内二内三内の各教室からは多数の非常勤ドクターを派遣していただき多大なるご支援を賜っております。感謝いたします。また、私の出身教室の整形外科教室からは、まさに家庭教師かのように、その道のスペシャリスト・ドクター達が研修医の教育に定期的に訪れてきています。ありがたいことです。それに、他病院の神経内科、脳神経外科からのリハビリテーションのご紹介も多いため、山形大学脳神経外科教室からのドクター派遣もいただき脳神経外科の専門領域につきましてご指導をいただいております。また、リハビリテーション専門医も勤務しているため、きめ細かいリハビリテーションの指導が可能であり、スムーズにご自宅へまたは施設へと移行がなされているようです。当院リハビリテーションPT、OT、総勢34人がお手伝いさせていただいております。

ところで、当院で当直をしますとお分かりいただけるかと思いますが、「熱がでた」「お腹が痛い」という患者さんは来ません。救急隊も搬送しません。その辺りが、この地で整形外科40年のためなのかは定かではありませんが、「外傷なら天童へ」ということで市民の皆さんや救急隊にも周知されているようです。

最近はその範囲がとても広くなり、大学近辺から尾花沢

まで各地域の救急車が集まってきてくれるようになりました。当院自前の外傷手術が年間400件。連携バス等々の術後リハビリテーションや脳卒中後リハビリテーションの患者さんも多くなり、大変にぎやかになってきました。

これも、蔵王協議会にご参加の各病院の皆様のおかげであると感謝いたしております。ありがとうございます。

今後は、整形外科、リハビリテーションに特化した病院として行ってきたこの経験と歴史を生かし、整形外科の中の特殊性を表に出しながら、ドクターから「天童で研修してみたい」「天童で仕事がしてみたい」「天童で研究がしたい」と言ってもらえるような病院づくりをしていこうと思っています。

それには、古くなった建物をどうしようか。銀行対策は。看護師募集に四苦八苦。等々、問題は山積みです。特に民間病院において設備投資は命がけです。悩みつつも、やらなければ!悩みつつも、やらなければ!の毎日ではありますが、蔵王協議会参加の病院の皆様とおつきあいの中で同様の境遇であっても、必死にがんばっている姿を見聞きするにつけ、励まされ、ご指導をいただくことで、今後の発展につなげていけるのではないかと気を強くしているところです。

最後に、私達が学生や研修医へのよりよい研修環境の提供を行う努力をすることはもちろんのことですが、蔵王協議会が山形大学医学部とその関連病院との大いなる連携の中心として機能し、参加全病院がそれぞれの地域で発展していくことを願ってやみません。



## 医療機関や行政 福祉施設との連携にも 力をいれています

### 若宮病院における精神科救急・ 急性期医療と児童思春期医療

社会医療法人公徳会若宮病院 院長 長谷川 朝穂

若宮病院は、昭和60年に開院した精神科単科の病院であり、従来よりアルコール依存症の治療や芸術療法など、特色ある医療を行ってきました。近年経営母体が社会医療法人公徳会となったことを契機に、病院施設の改築を進め、この春外来棟の竣工をもって一応の完成に至りました。

当院は改築を機に、救急・急性期治療や児童思春期などにも本腰を入れて取り組んでいます。本稿では、これらを軸に当院での医療を紹介させていただきます。

#### 1 電話相談

当院では、電話による受診相談（対象は精神科領域に限ります）を24時間体制で行っています。患者さんの症状や状態などを聴取した上で、緊急性があれば、ただちに受診を勧めますが、ある程度待てる状態であれば、後日に診察予約をいただくこともあります。電話で不安な気持ちを聞き、助言を行うこと自体が、相談者の不安を軽くすることもあるため、電話相談は救急医療の構成要素のひとつと言えるのです。

#### 2 救急診療と空床確保

必要に応じて、夜間休日の救急診療を行っており、緊急の入院にも対応できるよう、毎日欠かさず医師や各部署の代表スタッフが集まってベッドコントロールのためのカンファレンスを行い、空床の確保に努めています。各患者さんの状態をリアルタイムで把握していないと、適切なコントロールは行うことができませんので、カンファレンスはスタッフの意識向上に結びつくものとなっています。

#### 3 急性期治療

急性期治療病棟では、入院した患者さんが原則3ヶ月以内で自宅に退院できるように、治療の目標を設定しています。この病棟が有する59床のうち、35床は個室となっているため、比較的密度の高い医師や看護スタッフのマンパワーと相まって、それぞれの患者さんの病状等に合わせた個別の対応を行うことが可能となっています。

当院の伝統であるアルコール依存症に対する医療は、今なお重要であり、患者さんや家族が参加するグループミーティングなどを含めた治療プログラムが行われています。

また、急性期におけるリハビリテーションは重要で、それぞれの状態に適するよう、日常生活動作の援助を始めとして、手芸や工芸、音楽鑑賞（生演奏もあり）、歩行訓練

などの運動リハビリ、スポーツ、ヨガ、映画鑑賞、調理など多彩なプログラムを取りそろえました。場合によっては作業療法士が隔離室へ赴き、個別のプログラムを実施しています。

#### 4 チームによるアプローチ

患者さんの入院後間もない時期、退院の準備にかかる時期など、適宜担当スタッフらがケースミーティングを行い、情報を共有、診療方針に関して話し合い、それぞれの役割を確認しています。病状がよくなっても、家庭や住居環境、経済事情など、さまざまな問題を抱え、簡単には退院できないようなケースもあり、患者さん本人や家族を交えてのミーティングや退院前の家庭訪問を行い、更に介護や福祉など関係する機関との連携をはかることもあります。

#### 5 退院後のフォロー

退院後、外来通院によるフォローは一般的ですが、デイケアや外来作業療法などを利用し、濃密なアフターケアを行ったり、家庭訪問も適宜行うなどして、病状の再発や再燃予防に努めています。

#### 6 児童思春期の精神医療

当院では児童思春期の精神的な問題を対象とした相談や診療を行っています。2階病棟の一角には、子供の入院治療を対象とした、個室のみ6床からなる児童思春期ユニットが設けられています。子供に発症した統合失調症やうつ病はもちろん、広汎性発達障害や注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などのほか、児童思春期に特徴的な発達上の問題なども治療の対象としています。子供の医療には、家庭や学校などを含めた幅広い対応が必要であるため、医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士、管理栄養士などが連携をとり、チーム医療を行っています。

現在のわが国において、児童思春期の医療に対する経済的な裏付けは乏しいものであり、その労力からみると、まったくペイしないのが実情です。しかし「子どもの様子が心配」な時、どこの医療機関でも診てもらえないようでは、子育てもままならず、この国の将来に希望もなくなってしまうのではないのでしょうか？

子どもから高齢者まで、具合が悪くて心配なときに、いつでも相談でき、必要なら診療もできる、いわば当たり前の医療機関であることが当院の使命である、と考えています。

関係諸機関の皆さまには、このような当院についてご理解を賜り、更に今後ともご指導、ご鞭撻のほどをいただければ幸いです。

# 山形大学高度医療人研修センターのご案内



高度医療人研修センター長  
地域医療システム講座(山形県寄附講座)教授 佐藤 慎哉

山形大学医学部は、医療従事者の生涯教育支援による地域医療の質の向上を目指して、高度医療人研修センターを開設いたしました。今回、蔵王協議会だよりの誌面をお借りして、ご紹介させていただきます。

## 【高度医療人研修センターとは】

医学部卒業後の医師のキャリアパスを考えると、市中病院独自で生涯にわたり研修できることには限りがあります。大学病院のもつ教育病院としての機能を十分に利用することが有効です。生涯にわたり研鑽を積む志の高い医師にその機会を提供するのが新設した「高度医療人研修センター」です。本センターの事業推進には、地方自治体等との連携が不可欠であり、山形県寄付講座「地域医療システム」の中に開設いたしました。

## 【利用の具体例】

1. 専門医資格の取得(図1): 抗がん薬治療の専門医資格を取るためには、日本臨床腫瘍学会の認定訓練施設で2年以上診療に従事する必要がありますが、山形県を例にあげると認定訓練施設は大学病院、県立中央病院、市立病院済生館の3施設しかありません。現実的には、その他の医療施設の医師が、県立中央病院や市立病院で2年以上の研修を行うことは困難であり、実際に抗がん薬を使って治療にあっている医師が、経験を生かして専門医を希望しても資格を得ることは困難です。山形大学医学部附属病院は、前述の日本臨床腫瘍学会認定訓練施設をはじめ、現在55の専門医・認定医資格取得のための研修・協力施設として認定されており、ほぼ全ての専門医・認定医資格取得のための研修が可能です。本センターでは、地域の病院で勤務する医師の希望に応じて附属病院の関連する診療科との調整を行い、医員として給与を得ながら、研修中の経済的な問題を心配することなくより専門的な研修する機会を提供します。

図1: 専門医・認定医取得



2. 学位の取得(図2): 博士号取得のための相談窓口として、希望する研究の内容により関連する講座の紹介、調整も行います。新卒後臨床研修制度が始まった際に、多くの医師は博士号よりも専門医を指向する医師が多いとの報道が多くなされましたが、実態は必ずしもそうではなく、現在地

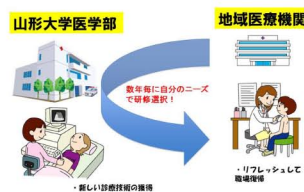
域医療に従事している医師の中にも、より高度な医療を地域に提供するために、大学院で臨床研究を行い、自分の医師としての能力を高めたというニーズは非常に高いことがわかってきました。山形大学大学院には、社会人特別枠があり、市中病院に勤務しながらでも大学院に入学することが可能です。

図2: 博士号取得



3. 市中病院と大学病院の連携生涯教育カリキュラム(図3): 医師が比較的規模の小さな医療機関への就職をためらう原因の一つに、「十分な生涯教育を受ける機会が乏しく医学の進歩について行けないのではないかな?」という不安があげられると思います。このような場合に、例えば「3年毎に希望する診療科で数ヶ月間大学病院での研修を受けられる(内地留学)」といった制度をつくることも有効ではないでしょうか。これは、近年、その重要性が叫ばれている循環型の生涯教育システムそのものです。大学病院との連携を病院の特色として積極的に広報して頂ければと考えております。

図3: 市中病院と大学病院の連携生涯教育カリキュラム



本事業に関心ある方は、高度医療人研修センターホームページ([http://www.id.yamagata-u.ac.jp/Chiiki\\_iryu/koudo/koudo.html](http://www.id.yamagata-u.ac.jp/Chiiki_iryu/koudo/koudo.html))をご覧ください。



# 5年生として今思うこと



山形大学医学部医学科 5年  
山口 茜

4年生の臨床実習が始まる季節となり、1年前の自分を思い出し懐かしくなる。何もできない自分がいても迷惑になるだけでは、と不安を抱えて実習に出たが、患者さん方は私達の実習を快く受け入れてくださり、「がんばっていいお医者さんになってね」と励ましの言葉をかけてくださった。

実習ではベッドサイドで患者さんと色々なお話をした。他愛もない世間話から昔の話、家族の話、苦労話、病気についての不安……。元気に退院していった方ばかりではなく、治らない方、一生病気と闘い続けなければならない方もいた。正直、どんな言葉をかけたら良いかわからない時も多々あった。しかし、患者さんが必要としているのは気休めのごまかしや慰めではなく、誰かに本音を聞いてもらい、不安を受け止めてもらうことであると気付かされた。人生経験の浅い

自分ではあっても、学生だから時間には余裕があり、医師よりも患者さんに近い立場だからこそ通じ合えるものがあつたように思う。

医療現場のペースに慣れ、忙しい毎日を送っていると、何を見ても冷静になり、普通の人の感覚を失っていく気がしたり、人の痛みがわからない人間になるのではないかと心配になることがある。これから自分は医療者側の立場となるわけだが、患者側の視点を忘れてはならないと思う。どんなに忙しくても、相手の立場を想像して話を聞ける余裕を持っていたい。Student doctor という立場で患者さんから学んだことを忘れず、今まで出会った患者さん方の期待に応えられるような医師になることが、今の私の目標である。



# 将来について

山形大学医学部医学科 5年  
樺澤 崇允

私たち医学科5年生は今、医師国家試験、卒後臨床研修開始まで約1年というところにいます。残りの学生生活もあとわずかとなり、自分の将来に思いを馳せることが多くなった最近の心境を述べさせていただきます。

4年生から各臨床科で2週間ずつ実習する「ポリクリ」がひとまず終わり、5年生の冬からは1か月ずつ6つの科を選択して実習を行う「クリクラ」が始まりました。前年に比べ、より参加型の実習をさせていただき、緊張感のある充実した実習をさせていただいております。これは、2年前に山形大学が設置したstudent doctor 制度と、教えてくださる先生方、そして学生が診療に参加することを同意してくださる患者さんのおかげでしょう。友人から聞く他大学の臨床実習よりも、充実した実習内容だと感じます。

さて、この先には、順調にいけば卒後臨床研修、後期研修、専門医取得……と1人前の医師となるまで

の大まかなルートが敷かれています。その第1歩目は専門科の決定でしょう。卒後臨床研修が終わってから決めるということもできると思いますが、卒後研修プログラムにも関わるので、やはり私は卒業までには決めたいです。しかし、実習を通して勉強すればするほどにどの科も興味深く、1つに絞る込むことができません。同じことで悩んでいる同級生も多いようです。私たちがとれる選択肢は3つ。1、むりやり自分に言い聞かせて1つ選ぶ。2、人が少なかったり、必要とされる科を選ぶ。3、専門分野をあえて決めない。先輩方はこんなとき、どうしてきたのでしょうか？

半年先には臨床研修先を決めなければならないので、この選択はどんどん差し迫ったものになってきます。私はおそらく2を選ぶかと思いますが、いずれの科を選んだとしても、将来は山形の、日本の、そして世界の医療を担う医師になれるようがんばります。

## 資料1

平成22年度

## 東北地区大学病院及び山形県内研修病院のマッチング状況

病 院 名	定 員	マッチ者	空き定員	定員充足率
弘前大学医学部附属病院	44	6	38	0.14
岩手医科大学附属病院	35	9	26	0.26
東北大学病院	31	16	15	0.52
秋田大学医学部附属病院	35	13	22	0.37
山形大学医学部附属病院	50	28	22	0.56
福島県立医科大学附属病院	45	18	27	0.40
山形大学医学部附属病院	50	28	22	0.56
山形県立中央病院	15	12	3	0.80
山形市立病院済生館	10	7	3	0.70
山形済生病院	8	6	2	0.75
公立置賜総合病院	9	0	9	0.00
米沢市立病院	5	0	5	0.00
山形県立新庄病院	4	2	2	0.50
鶴岡市立荘内病院	5	1	4	0.20
日本海総合病院	10	10	0	1.00
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院	4	0	4	0.00
山形徳州会病院	2	0	2	0.00
山 形 県 合 計	122	66	56	0.54

## (参考) 21年度マッチング結果

病 院 名	定 員	マッチ者	空き定員	定員充足率
山形大学医学部附属病院	50	40	10	0.80
山形県立中央病院	15	13	2	0.87
山形市立病院済生館	10	10	0	1.00
山形済生病院	8	7	1	0.88
公立置賜総合病院	9	3	6	0.33
米沢市立病院	5	1	4	0.20
山形県立新庄病院	4	0	4	0.00
鶴岡市立荘内病院	5	2	3	0.40
日本海総合病院	10	6	4	0.60
医療法人社団山形愛心会 庄内余目病院	4	0	4	0.00
山形徳州会病院	2	0	2	0.00
山 形 県 合 計	122	82	40	0.67

## 資料2 研修医マッチングの結果（参加病院の所在地による全国分布）

都道府県	平成22年		平成21年		マッチ者数増減 ①-②
	募集定員	マッチ者数①	募集定員	マッチ者数①	
北海道	429	257	425	276	△19
青森県	130	69	127	62	7
岩手県	119	70	115	74	△4
宮城県	152	110	156	109	1
秋田県	122	51	124	65	△14
山形県	122	66	122	82	△16
福島県	149	78	144	72	6
茨城県	185	114	178	104	10
栃木県	180	115	184	117	△2
群馬県	122	92	121	77	15
埼玉県	380	223	379	183	40
千葉県	388	292	371	289	3
東京都	1,516	1,409	1,468	1,351	58
神奈川県	687	579	669	596	△17
新潟県	184	88	180	92	△4
富山県	102	46	103	61	△15
石川県	165	106	166	112	△6
福井県	98	57	98	73	△16
山梨県	87	36	107	49	△13
長野県	157	112	150	125	△13
岐阜県	143	108	138	102	6
静岡県	237	158	233	158	0
愛知県	578	489	579	515	△26
三重県	129	93	126	86	7
滋賀県	106	75	101	67	8
京都府	291	265	289	251	14
大阪府	685	624	679	601	23
兵庫県	387	343	384	323	20
奈良県	101	76	97	80	△4
和歌山県	98	84	95	75	9
鳥取県	69	44	68	25	19
島根県	96	45	100	31	14
岡山県	210	187	199	152	35
広島県	187	153	182	151	2
山口県	117	85	111	82	3
徳島県	94	55	90	55	0
香川県	103	52	98	60	△8
愛媛県	113	79	113	57	22
高知県	94	50	90	46	4
福岡県	514	438	505	446	△8
佐賀県	84	38	80	49	△11
長崎県	153	89	139	85	4
熊本県	120	98	120	96	2
大分県	108	65	106	62	3
宮崎県	75	30	75	38	△8
鹿児島県	165	73	162	83	△10
沖縄県	161	132	154	130	2
計	10,692	7,998	10,500	7,875	123



## 資料3) 平成23年度 卒後臨床研修プログラム・2年次

番号	氏名	平成23年度・2年次											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A-1	荒木 勇太	公立置賜総合病院(救急)	皮膚科									最上町立病院	皮膚科
A-2	石川 詩織	公立置賜総合病院(糖尿病内分泌科)						小国町立病院	米沢市立(小児)	産婦人科	臨床病理		
A-3	牛島 正毅	精神科	産婦人科	朝日町立病院	日本海総合病院(泌尿器科)								
A-4	海老名 のりえ	一内科		二内科		三内科		麻酔科					
A-5	岡田 弘明	米沢市立(救急)			米沢市立(放射)			米沢市立(三内)					
A-6	岡村 賢	公立置賜(精神)	公立置賜(麻酔)	最上町立病院	皮膚科								
A-7	小澤 迪喜	公立置賜総合病院(救急)			公立置賜総合病院(泌尿器)								
A-8	小野寺 雄二	救急①		救急②		麻酔科	朝日町立病院	一外科	一外科				
A-9	沓澤 由梨	米沢市立(精神)	米沢市立(小児)	皮膚科					小国町立病院	皮膚科			
A-10	齋藤 真紀	米沢市立(救急)			一内科			日本海総合病院(内科・呼吸器)					
A-11	坂下 徳	二内科		一内科		一内科			小児科				
A-12	佐多 晶子	小児科	産婦人科						真室川町立病院	済生病院(産婦)	済生病院(産婦人科)		
A-13	佐藤 建人	一内科			小国町立病院	二外科	精神科	県立新庄病院(内科・呼吸器)					
A-14	佐藤 洋介	麻酔科	精神科	真室川町立病院	一内科				鶴岡市立荘内病院(一内)				
A-15	菅原 心平	精神科	真室川町立病院	小児科	日本海総合病院(二内)								
A-16	高橋 徹也	一内科	日本海(心外)	日本海(小児)	日本海総合病院(循環器内科)								
A-17	朝長 高太郎	米沢市立(小児)	米沢市立(産婦)	小児科			最上町立病院	小児科		二外科			
A-18	中野 寛之	米沢市立(放射)			米沢市立(救急)／救急			二外科	精神科	最上町立病院	救急科		
A-19	成澤 健	救急①		救急②		真室川町立病院	一外科	精神科	日本海総合病院(三内)				
A-20	野間 未知多	県立中央(内科・呼吸器)				県立中央(救急)		最上町立病院	産婦人科	二外科	一内科		
A-21	橋本 直明	一内科			石巻赤十字病院(循環器科)								
A-22	埴 歓	三内科		精神科	精神科			秋野病院(精神)					
A-23	平山 敦士	一内科			公立置賜総合病院(循環器内科)				県立中央病院(循環器内科)				
A-24	廣岡 秀人	麻酔科	朝日町立病院	新庄(一般外科)	県立新庄病院(一般外科)								
A-25	福原 宏樹	最上町立病院	新庄(一般外科)	さくら町(精神科)	市立済生館(泌尿器科)								
A-26	松川 淳	産婦人科	産婦人科		最上町立病院	精神科	産婦人科						
A-27	森岡 梢	米沢市立(産婦)	米沢市立(一外)	放射線科				小国町立病院	放射線科				
A-28	吉岡 彩子	救急②		救急①		公立置賜総合病院(二内)							
外科重点-1	塩田 光	三内科		鶴岡市立荘内(麻酔)	日本海総合病院(一外)								
外科重点-2	鈴木 武文	公立置賜総合病院(一外)			公立置賜総合病院(救急)			朝日町立病院	麻酔科	一外科			
外科重点-3	外田 慎	朝日町立病院	日本海(小児)	日本海総合病院(一外)									
外科重点-4	安本 匠	日本海総合病院(一外)										麻酔科	
救急・麻酔科重点	伊藤 歩美	公立置賜(外科)	麻酔科				小国町立病院	麻酔科		放射線科			
小児科重点-1	川崎 直未	救急②		救急①		朝日町立病院	米沢市立病院(小児科)						
小児科重点-2	鈴木 康太	小児科				精神科	朝日町立病院	小児科					
産婦人科重点-1	榊 宏諭	小国町立病院	一外科	産婦人科				米沢市立病院(産婦人科)					
産婦人科重点-2	竹原 功	済生病院(産婦人科)						精神科	最上町立病院	産婦人科			
番号	氏名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

平成23年度・2年次

## 資料4 後期研修医の動向

H23.1.1 現在

診療科名	人数	内 訳												備 考	
		性別		初期研修			出身大学		出 身		研修先				
		男	女	山形大学 医学部 付属病院	県内 他病院	県外 病院	本学	他大学	山形県	その他	大学病院				関連 病院
											助教	医員	大学院 生		
第一内科	23	18	5	12	11		21	2	9	14		11	6	6	
第二内科	14	11	3	9	2	3	11	3	10	4		5		9	※1名育児のため 休職中（人数には 含まれない）
第三内科	5	4	1	4		1	4	1	3	2		3		2	
精神科	7	7	0	7			7	0	1	6		3		4	
小児科	13	8	5	9	3	1	13	0	3	10		4	2	7	※1名育児のため 休職中（人数には 含まれない）
第一外科	6	5	1	5	1		6	0	4	2		2		4	
第二外科	11	11	0	10	1		11	0	4	7	2	4		5	
脳神経外科	0	0	0	0			0	0	0						
整形外科	13	12	1	6	6	1	12	1	2	11		5		8	※1名育児のため 休職中（人数には 含まれない）
皮膚科	1	0	1	1			1	0	0	1		1			
泌尿器科	6	5	1	3	2	1	6	0	1	5		3		3	
眼科	11	5	6	9	2		11	0	5	6	4	5		2	
耳鼻咽喉科	7	6	1	2	4	1	7	0	2	5		4		3	
放射線診断科	9	5	4	4	4	1	9	0	4	5	2	4		3	
放射線治療科	6	5	1	1	4	1	4	2	1	5	3	2		1	
産婦人科	10	4	6	6	2	2	7	3	3	7		6		4	
麻酔科	7	2	5	4	3		6	1	3	4	2	4		1	
歯科口腔外科・ 形成外科(形成)	1	0	1	1			1	0	0	1		1			
病理部	1	1	0	1			1	0	1	0		1			
臨床検査医学															
救急医学															
計	151	109	42	94	45	12	138	13	56	95	13	68	8	62	

## 山形大学蔵王協議会会則

(名称)

第1条 本会を山形大学蔵王協議会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の緊密な連携と協力により山形大学並びに関連医療施設の医学・医療の充実と発展を図り、人材養成と地域医療の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 卒後臨床研修体制の整備等に関すること。
- (2) 関連医療施設との連携に関すること。
- (3) 山形大学地域医療医師適正配置委員会との連携に関すること。
- (4) 地域の医師の適切な配置に関すること。
- (5) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

(会員)

第4条 本会の会員は、山形大学医学部教授会、山形大学関連病院会及び山形大学医学部教室員会の構成員並びに山形県健康福祉部及び山形県医師会の代表より成る。

(事務局)

第5条 本会の事務局を山形大学医学部教室員会内に置く。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 3人
- (3) 顧問 2人
- (4) 運営委員 7人
- (5) 監事 2人
- (6) 事務局代表 2人
- (7) 会計 2人

(職務・選任)

第7条 会長は会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。会長及び副会長は、前条第3号から第7号までの役員及び第10条の委員を選任する。

2 原則として、会長は山形大学医学部長が、副会長は山形大学医学部附属病院院長及び山形大学関連病院会会長がその任に就く。ただし、山形大学医学部長が会長の任に就かない場合は、副会長の任に就くこととする。

3 顧問は、山形県健康福祉部代表1人、山形県医師会代表1人とする。

4 運営委員は、医学部教授会構成員3名、関連病院会構成員3名とし、教室員会会長を加える。

5 監事は、医学部教授会構成員1名、関連病院会構成員1名とする。

6 事務局代表は、原則として医学部教授会構成員1名、教室員会副会長1名とする。

7 会計は、医学部教授会構成員1名、教室員会書記長とする。

(任期)

第8条 役員は任期は1年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第9条 本会の運営等を円滑に行うため、運営委員会を置く。運営委員会は、第6条の役員と次条の各部会の部長3名によって構成する。

2 運営委員会は、総会議案の協議、部会への事業の委任、調整等をはじめ会の実質的な運営に当たる。急を要する事項については総会に代わって協議処理できるものとする。

(部会)

第10条 本会の目的達成のため次の部会を置く。

(1) 関連医療施設部会

(2) 研修部会

(3) 企画・広報部会

2 各部会の委員は、会長が副会長と合議の上、指名するものとする。

3 各部会の部長及び副会長は委員の互選によって選出する。

4 各部会の部長、副部長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

5 委員の構成については別に定める。

(総会)

第11条 総会は原則として年1回会長が招集する。会長はほかに必要ある場合、運営委員会に諮り臨時の総会を招集することができる。

2 総会は、第4条の会員の出席により成立し、本会の目的を達成するための協議機関とする。

3 総会の議題は運営委員会で協議し、総会前に会員に通知する。

4 総会の議長は会長をもって充てる。

(会計)

第12条 本会の運営に必要な経費は、会費及びその他の収入をもってこれに当てる。

2 会費については別に定める。

3 運営委員会は、年度毎の予算決算について総会に報告し承認を受けるものとする。

(会則の変更)

第13条 会則の変更は、運営委員会の議を経た後、総会出席者の過半数の賛成を得て行うものとする。

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

附則

この改正会則は、平成15年3月29日から施行する。

附則

この改正規則は、平成17年7月20日から施行する。

附則

この改正規則は、平成18年12月5日から施行する。

附則

この改正規則は、平成22年4月1日から施行する。

## 山形大学蔵王協議会部会規程

(趣旨)

第1条 山形大学蔵王協議会会則第10条第5項の規定に基づき、部会の構成を定める。

2 会長が必要と認めるときは、構成員以外の者を委員に加えることができる。

(関連医療施設部会)

第2条 関連医療施設部会は、山形大学と関連医療施設との連携について協議し、次の委員をもって構成する。

- (1) 医学部教授会構成員 3人
- (2) 関連病院会構成員 3人
- (3) 医学部教室員会構成員 1人
- (4) 初期研修医 2人

(研修部会)

第3条 研修部会は、初期2年間の研修体制等について協議し、次の委員をもって構成する。

- (1) 医学部教授会構成員 3人
- (2) 関連病院会構成員 4人
- (3) 医学部教室員会構成員 1人
- (4) 医学部学生 5人

(企画・広報部会)

第4条 企画・広報部会は、山形大学蔵王協議会が実施する事業の企画、広報等について協議し、次の委員をもって構成する。

- (1) 医学部教授会構成員 3人
- (2) 関連病院会構成員 3人
- (3) 医学部教室員会構成員 1人
- (4) 初期研修医 2人

(5) 医学部学生 3人

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

附則

この改正会則は、平成15年3月29日から施行する。

附則

この改正会則は、平成21年3月17日から施行する。

## 山形大学蔵王協議会会費規程

第1条 山形大学蔵王協議会会則第12条第2項の規定に基づき、各構成員の年会費を次のとおり定める。

- (1) 山形大学医学部教授会 100,000円
- (2) 関連病院会 17,500円に加盟病院数を乗じた額
- (3) 山形大学医学部教室員会 200,000円

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

## 山形大学関連病院会会則

(構成・名称)

第1条 本会は、山形大学に関連する医療施設を会員として構成し、山形大学関連病院会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦、研修を図るとともに、山形大学蔵王協議会と密接な連携を取りながら卒後臨床研修及び地域医療の充実と寄与することを目的とする。

2 本会は、山形大学蔵王協議会に加盟するものとする。

(資格)

第3条 本会会員は、前条の目的に賛同し入会した者とする。

(入会)

第4条 会員になるうとする者は、所定事項を記入した入会申込書(別紙様式1)を会長に提出し、会長の承認を受けなければならない。

(事務所)

第5条 本会は、事務所を山形大学蔵王協議会事務局内に置く。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 1又は2人
- (2) 評議員 若干人
- (4) 監事 2人

2 会長は、総会で会員の中から選出する。

3 副会長及び評議員は、会員の中から会長が委嘱する。

4 監事は、総会で選出する。

5 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

(総会)

第7条 総会は、定例総会及び臨時総会とする。

2 定例総会は、年1回会長が招集する。

3 臨時総会は、必要に応じて会長が招集する。

(経費)

第8条 本会の運営に要する経費は、会費及びその他の収入をもって充てる。

2 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(退会)

第9条 会員が退会しようとするときは、理由を付し退会届(別紙様式2)を会長に提出しなければならない。

附則

この会則は、平成14年8月8日から施行する。

附則

この改正会則は、平成19年3月8日から施行する。

# 山形大学関連病院会加盟病院一覽

No.	病院名	病院長名
国立 1	国立病院機構山形病院	圓谷 建治
国立 2	国立病院機構米沢病院	飛田 宗重
県立 3	山形県立河北病院	片桐 忠
県立 4	山形県立総合療育訓練センター	井田 英雄
県立 5	山形県立新庄病院	鈴木 知信
県立 6	山形県立鶴岡病院	灘岡 壽英
県立 7	山形県立中央病院	小田 隆晴
市立 8	寒河江市立病院	布施 明
市立 9	鶴岡市立荘内病院	三科 武
市立 10	天童市民病院	松本 修
市立 11	山形市立病院済生館	平川 秀紀
市立 12	米沢市立病院	芦川 紘一
市立 13	酒田市立八幡病院	土井 和博
町立 14	朝日町立病院	小林 達
町立 15	小国町立病院	阿部 吉弘
町立 16	町立金山診療所	山科 明夫
町立 17	白鷹町立病院	高橋一二三
町立 18	公立高島病院	八巻 通安
町立 19	西川町立病院	須貝 昌博
町立 20	町立真室川病院	室岡久爾夫
町立 21	最上町立最上病院	佐藤 俊浩
公立 22	公立置賜総合病院	新澤 陽英
県内 23	日本海総合病院	栗谷 義樹
県内 24	酒田医療センター	栗谷 義樹
県内 25	秋野病院	木下 修身
県内 26	尾花沢病院	渋谷 磯夫
県内 27	小原病院	小原 正久
県内 28	小白川至誠堂病院	大江 正敏
県内 29	佐藤病院	沼田由紀夫
県内 30	三友堂病院	仁科 盛之
県内 31	三友堂リハビリセンター	穂坂 雅之
県内 32	至誠堂総合病院	高橋 敬治
県内 33	篠田総合病院	篠田 昭男
県内 34	新庄明和病院	佐藤 明
県内 35	千歳篠田病院	吉田 邦夫
県内 36	天童温泉篠田病院	大田 政廣
県内 37	鶴岡協立病院	猪股 昭夫
県内 38	東北中央病院	田中 靖久
県内 39	二本松会上山病院	江口 拓也

No.	病院名	病院長名
県内 40	山形さくら町病院	横川 弘明
県内 41	舟山病院	鬼満 圭一
県内 42	みゆき会病院	加藤 修一
県内 43	山形済生病院	濱崎 允
県内 44	山形厚生病院	千葉 昌和
県内 45	矢吹病院	矢吹 清隆
県内 46	横山病院	横山 幸生
県内 47	丹心会 吉岡病院	吉岡 信弥
県内 48	公德会 若宮病院	長谷川朝穂
県内 49	明石医院	伊藤 義彦
県内 50	大島医院	安達 真人
県内 51	電興診療所	飯田 俊也
県内 52	木根淵医院	木根淵清志
県内 53	健生ふれあいクリニック	本間 卓
県内 54	原田香曾我部医院	香曾我部謙志
県内 55	白田医院	白田 一誠
県内 56	楯岡鈴木内科医院	鈴木 康洋
県内 57	長岡医院	長岡 迪生
県内 58	南陽鈴木内科医院	鈴木 紘治
県内 59	山形泌尿器科クリニック	安達 雅史
県内 60	吉川記念病院	吉川 順
県内 61	庄内余目病院	野末 睦
県内 62	(医)伍光会 北村山在宅診療所	肌附 英幸
県外 63	岩手県立千厩病院	伊藤 達朗
県外 64	石巻赤十字病院	飯沼 一字
県外 65	泉整形外科病院	根本 忠信
県外 66	仙台社会保険病院	田熊 淑男
県外 67	仙台徳洲会病院	福地 満正
県外 68	みやぎ県南中核病院	内藤 広郎
県外 69	会津西病院	小松 紘
県外 70	大町病院	猪又 義光
県外 71	太田西ノ内病院	堀江 孝至
県外 72	呉羽総合病院	窪田 幸男
県外 73	坪井病院	岩波 洋
県外 74	鳴瀬病院	鳴瀬 淑
県外 75	枳記念病院	太田 守
県外 76	池田脳神経外科病院	池田俊一郎
県外 77	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	今井 嘉門
県外 78	埼玉協同病院	高石 光雄
県外 79	木戸病院	矢田 省吾
県外 80	立川総合病院	岡部 正明

## 山形大学蔵王協議会役員一覽

役職名	教授会	関連病院会	教室員会
会長	国立がん研究センター 理事長 嘉山 孝正		
副会長	医学部長 山下 英俊 附属病院長 久保田 功	公立置賜 新澤 陽英	
顧問	(山形県医師会長 有海 躬行)	(山形県健康福祉部長 望月 明雄)	
運営委員	放射線診断科 細矢 貴亮 第一外科 木村 理 泌尿器科 富田 善彦	県立河北 片桐 忠 日本海総合 栗谷 義樹 米沢市立 芦川 紘一	会長 木村 青史
監事	耳鼻咽喉科 青柳 優	東北中央 田中 靖久	
事務局代表	公衆衛生 深尾 彰	(医学部総務課)	副会長 未定
会計	解剖学第二 後藤 薫		書記長 大泉 弘幸 (医学部総務課)

部会名	教授会	関連病院会	教室員会	その他の機関
関連医療施設部会	◎小児科 早坂 清 産婦人科 倉智 博久 第二外科 貞弘 光章	○県立中央 小田 隆晴 済生館 平川 秀紀 山形済生 濱崎 允 県立河北 片桐 忠 小国町立 阿部 吉弘 最上町立 佐藤 俊浩 市立八幡 土井 和博	管理運営部長 未定	山形県健康福祉部長 望月 明雄 山形県病院事業局長 仁科 義英 (初期研修医) 石川 恵理 矢野亜希子
研修部会	◎第三内科 加藤 文夫 精神科 大谷 浩一	○国病山形 圓谷 建治 県立新庄 鈴木 知信 市立荘内 三科 武之 三友堂 仁科 盛之	教育問題部長 未定	(平成17年入) 城之前 翼 須貝 孝幸 杉山恵一郎
企画・広報部会	◎放射線治療科 根本 建二 皮膚科 鈴木 民夫 麻酔科 川前 金幸	国病米沢 飛田 宗重 ○日本海総合 栗谷 義樹 篠田総合 篠田 昭男	広報部長 川勝 忍	(初期研修医) 石川 恵理 矢野亜希子 (平成17年入) 城之前 翼 須貝 孝幸 杉山恵一郎

(注：◎印は部長、○印は副部長)

編集責任者 川前金幸 (麻酔科学講座)